

令和7年度(2025 年度)

# 病虫害発生予察情報 第15号

## 注意報第8号

北海道病虫害防除所 令和7年(2025年)7月25日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

## 全道的にマメシクイガが早発・多発！ 大豆の生育に合わせて適期防除に努めましょう！

本年6月下旬以降、長沼町・比布町・芽室町・訓子府町の予察ほ場(無防除)に設置したフェロモントラップにマメシクイガが早期に誘殺されており、また長沼町・比布町では誘殺数も平年より多く推移しています。

マメシクイガは、前年に大豆を栽培したほ場の土中で幼虫越冬します。越冬後に各地域で栽培される大豆の早晚性に合わせ、開花始頃に成虫が大豆莢表面に産卵し、そこからふ化した幼虫は未熟莢に侵入して子実を食害します。成虫の飛翔距離は短いため、大豆の連作ほ場及び昨年大豆作付けほ場に近接するほ場では、特に被害が大きくなります。

札幌管区気象台発表の7月22日付け3か月予報によると、8月の気温は平年より高いと予報されており、大豆の生育は全道的に早まるとともにマメシクイガの活動も活発になるものと予想されます。

以上のことから本年はマメシクイガが全道的に早発・多発するおそれがあるため、大豆の生育に合わせた適期防除に努めましょう。

1. 発生地域 全道
2. 発生期 早
3. 予想される発生量 多

#### 4. 注意報発令の根拠

- (1) 長沼町・比布町・芽室町・訓子府町の予察ほ場(無防除)に設置したフェロモントラップで、マメシクイガが早期に誘殺されている(表1)。
- (2) 長沼町・比布町の予察ほ場(無防除)のフェロモントラップでは、誘殺数が多く推移している(図1)。
- (3) 農作物生育状況調査(7月15日現在)によると、大豆の生育は平年よりも全道的に早く進んでいる。
- (4) 札幌管区気象台発表の7月22日付け3か月予報によると、8月の気温は平年より高いと予報されており、大豆の生育は全道的に早まるとともにマメシクイガの活動も活発になるものと予想される。

#### 5. 防除対策

- (1) 防除は、暦日ではなく図2(成虫発生の有無及び莢伸長始を指標とした散布開始時期の決定手順と薬剤散布体系)に従い、各地域の散布開始時期を決定する。ただし、すでにマメシクイガの発生が確認されている地域(道南以外の地域)においては、莢伸長始に達した6日後を目処に1回目の防除を実施する。



写真1 マメシクイガ成虫(体長：約6mm)

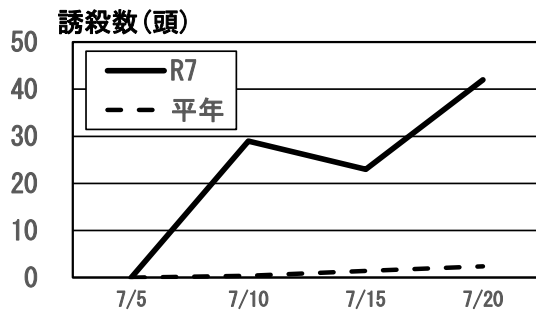


写真2 マメシクイガによる大豆被害子実

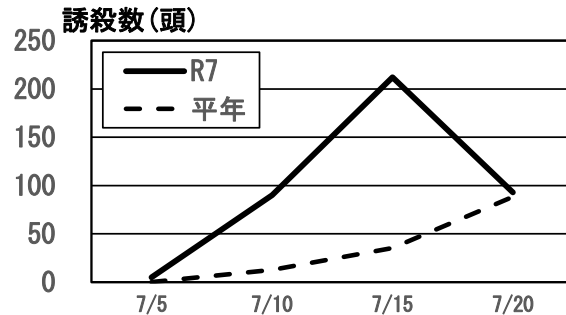
表 1 道内各地点に設置したマメシクイガ・フェロモントラップの初誘殺日

	R7年の 初誘殺日	平年値 (H27~R6の10年平均)	平年比
長沼町	7月6日	7月19日	13日早
比布町	6月29日	7月15日	16日早
北斗市	—	8月3日	—
芽室町	7月18日	7月25日	7日早
訓子府町	7月17日	8月2日	16日早

※北斗市は、未誘殺



長沼町



比布町

図 1 長沼町及び比布町に設置したマメシクイガ・フェロモントラップの誘殺数の推移

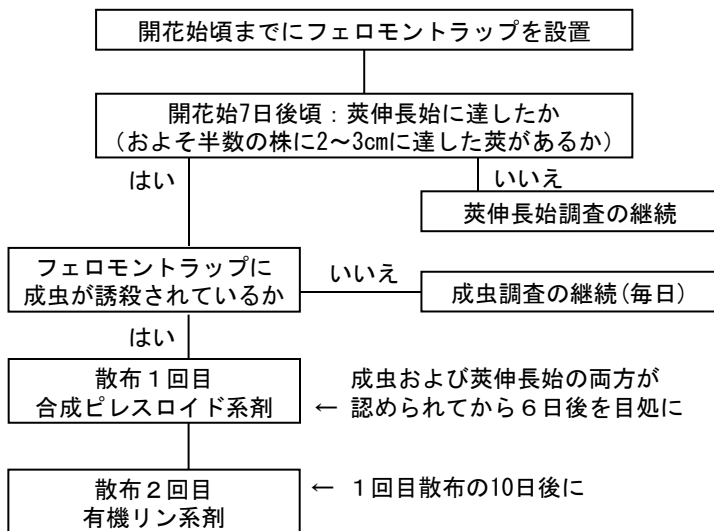


図 2 成虫発生の有無及び莢伸長始を指標とした散布開始時期の決定手順と薬剤散布体系